国語表現（３年次 文科類型 選択 ２単位）

１．学習の到達目標

ことばによる、より豊かな表現をめざし、主に「書くこと」による表現活動を中心に行う。

① 語彙を増やし、効果的に表現する力を育成する。
② 正しい原稿用紙の使い方や手紙の書き方などを身につける。
③ 自分の考えをわかりやすく表現する。
④ 話題や題材に応じて情報を収集し、自分の主張や考えを適切に伝える。

２．学習上の留意点（アドバイス）

① 基本　国語辞典を準備し「自分で調べる」姿勢を忘れない。
　　ニュース、新聞にも関心を持ち、常識と語彙を豊かにしていく。
② 予習　授業内容の確認、課題の作成。
③ 心掛け
　Ⅰ　語句の意味、用法に注意する。辞書を活用する。
　Ⅱ　論理の構成などを工夫して、丁寧な表現をこころがける。
　Ⅲ　慣れることが大切である。積極的に表現してみる。
　Ⅳ　より深い視点、より広い視野を意識して、自分の考えをまとめる。

３．評価方法

① 定期試験（中間試験，期末試験）（年４回）　70～80%
② 小テスト、学習意欲・態度、課題の提出等　　20～30%

４．授業形態

教科書を使った学習と並行して、問題演習や表現演習を行う一斉授業

５．使用教材

教科書『国語表現Ⅰ』（第一学習社）
『新版四訂新訂総合国語便覧』・『テスト式国語常識の総演習』

６．一年間の流れ（予定）

学期	学習内容	考査
1学期	表現の基礎 語彙を増やす。 題材に応じた適切な文章を書く。 わかりやすい表現を用いて文章を書く。 表現のしかたを工夫する。 聞く態度を身につける。	1学期中間試験
	表現の実践（一） 語彙を増やす。 正しい手紙の書き方を身につける。 自分の考えを確実に相手に伝える。 敬語を正しく使う。 論理の構成や表現のしかたを工夫して文章を作成する。	1学期期末試験
2学期	表現の実践（二） 語彙を増やす。 ポイントを絞り、内容の整ったレポートを書く。 聞き取りやすさに配慮した発表をする。 地域のことばに関心を持つ。 論理の構成や表現のしかたを工夫して文章を作成する。	2学期中間試験
	表現の実践（三） 語彙を増やす。 意見文の書き方に則った小論文を書く。	2学期期末試験
3学期	問題演習	

現代文Ｂ（３年次 文科類型 必修 ３単位）

１．学習の到達目標

現代文は、昨年度に引き続き、評論文・エッセイ・小説・韻文を学習する。

① 文章を読んで、構成、展開、要旨をとらえることができる。
② 文章を読んで、人物、情景、心情の描写などをとらえ、表現を味わうことができる。
③ 文章を批評し、人間、社会、自然などについて、自分の考えを深めることができる。
④ 語句の意味、用法を理解し、語彙を豊かにするとともに、表現上の特色をとらえ、自分の表現にも役立てることができる。

２．学習上の留意点（アドバイス）

① 基本　国語辞典を準備し「自分で調べる」姿勢を忘れない。
　　ニュース、新聞にも関心を持ち、常識と語彙を豊かにしていく。
② 予習　音読・黙読を行う。新出単語、文法事項の下調べを行う。意味段落に分ける。
③ 心掛け
　Ⅰ　話の展開や視点の面白さを味わい、筆者・作者のものの見方・考え方をつかむこと。
　Ⅱ　文章、文も「慣れること」が重要。そのために地道に復習すること。
　Ⅲ　本文の内容をより深い視点、より広い視野から考えること。

３．評価方法

① 定期試験（中間試験，期末試験）（年４回）　80%
② 小テスト、学習意欲・態度、課題の提出等　　20%

４．授業形態

教科書を使った学習と並行して、問題演習を行う一斉授業

５．使用教材

教科書『精選現代文Ｂ新訂版』（大修館書店）
副読本『新版四訂新訂総合国語便覧』
　『国語頻出問題 1200 四訂版』
　『新版品詞別頻出漢字マスター３０００』
問題集『錬成現代文２＋』
　『大学入学共通テストへのアプローチ　実用的な文章と記述式問題』
　『大学入学共通テスト準備演習　論理・文学編』

６．一年間の流れ（予定）

学期	学習内容	考査
1学期	1評論（一） 「『贈り物』としてのノブレス･オブリージュ」	1学期中間試験
	1評論（一） 「『贈り物』としてのノブレス･オブリージュ」 2小説（一） 「赤い繭」	1学期期末試験
2学期	3評論（二） 「実体の美と状況の美」 6小説（二） 「樟樹」	2学期中間試験
	4随想 「浄瑠璃寺の春」 5評論（三） 「『である』ことと『する』こと」	2学期期末試験
3学期	大学入学共通テスト受験者 　大学入学共通テスト対策（マークセンス方式対応）問題演習 大学入学共通テスト未受験者 　問題集の解答 （大学入学共通テスト終了後） 10小説（三） 　舞姫	

古典Ｂ（３年次 文科類型 必修 ３単位）

１．学習の到達目標

日本の古典である古文と中国の古典である漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典に親しむことによって人生を豊かにする態度を育てる。

① 言語文化や伝統に対する関心を深め、創造力の源泉である古典に親しむ。
② 音読を繰り返すことにより、古文や漢文のもつ独特なリズムを身に付ける。
③ 助動詞や助詞の用法、敬語法などに習熟し、的確な現代語訳ができるようにする。
④ 漢文訓読法を習得し、さまざまな句法を覚え、書かれた内容を的確に理解できるようにする。
⑤古典にあらわれた思想や感情を的確に読み取る力を養う。

２．学習上の留意点（アドバイス）

① 基本　古語辞典・漢和辞典を準備し「自分で調べる」姿勢を忘れない。
　　体系古典文法・新漢文基本ノートを活用する。
　　国語便覧の関連ページを開き、作品自体の知識を増やす。
② 予習　音読・黙読を行う。本文を書き写す。新出単語、文法事項の下調べを行う。
③ 心掛け
　Ⅰ　作者のものの見方、考え方を把握し、時代背景に即して鑑賞する。
　Ⅱ　古文も漢文も「慣れる」ことが大切。そのために復習と音読を繰り返すこと。

３．評価方法

① 定期試験（中間試験，期末試験）（年４回）　70～80%
② 小テスト、学習意欲・態度、課題の提出等　　20～30%
③ 実力試験の得点(年１回実施)を学年末評価の１／10に組み入れる。

４．授業形態

教科書を使った学習と並行して、問題演習を行う一斉授業

５．使用教材

教科書『新精選古典Ｂ 古文編』（明治書院）・『新精選古典Ｂ 漢文編』（明治書院）
『新版四訂新訂総合国語便覧』・『完全マスター古典文法』・『新・漢文の基本ノート』
『みるみる覚える古文単語３００』・『国語頻出問題 1200 四訂版』
『錬成古典２＋』・『大学入学共通テスト準備演習 古文・漢文編』

６．一年間の流れ（予定）

学期	学習内容	考査
1学期	（古文）更級日記　門出 大鏡　花山天皇の退位 （漢文）廉頗・藺相如（１）澠池之会	1学期中間試験
1学期	（古文）枕草子　二月つごもり頃に 紫式部日記　和泉式部・清少納言 （漢文）廉頗・藺相如（２）刎頸之交	1学期期末試験
2学期	（古文）無名抄　おもて歌のこと 源氏物語　紫の上の死 （漢文）荊軻（１）風蕭蕭兮易水寒	2学期中間試験
2学期	（古文）大鏡　三船の才 肝試し （漢文）荊軻（２）図窮而匕首見	2学期期末試験
3学期	問題演習	

現代文読解（３年次 文科類型 選択 ２単位）

１．学習の到達目標

近代以降のさまざまな文章を読み、特に「読む力」をつけることを主眼とし、現代の複雑かつ多岐にわたる言語生活に適応できる力を養う。

① 論理的な文章を展開に注意して読解し、筆者の主張や要旨を正確に理解する。
② 論理的な文章の組み立て、語句の用法、表記のしかたを理解する。
③ 文学的な文章を登場人物の心理の変化に着目して読み取る。
④ 近代文学史について学ぶ。

２．学習上の留意点（アドバイス）

① 基本　国語辞典を準備し「自分で調べる」姿勢を忘れない。
　　ニュース、新聞にも関心を持ち、常識を豊かにしていく。
② 予習　授業内容の確認、問題解答。
③ 心掛け
　Ⅰ　語句の意味、用法を的確に理解し、語彙力を養う。辞書を活用する。
　Ⅱ　文章を読んで、構成、要旨などを的確にとらえる。
　Ⅲ　文章を読んで、人間、社会、自然などについて自分の考えを深める。
　Ⅳ　より深い視点、より広い視野を意識して、自分の考えを相手に伝える。

３．評価方法

① 定期試験（中間試験，期末試験）（年４回）　70～80%
② 小テスト、学習意欲・態度、課題の提出等　　20～30%

４．授業形態

教科書を使った学習と並行して、問題演習を行う一斉授業

５．使用教材

教科書『精選現代文Ｂ新訂版』（大修館書店）
『新版四訂新訂総合国語便覧』・『図でつかむ リード現代文 ２標準』
『共通テスト分野別対策 ベーシックマスター 国語 現代文 改訂版』

６．一年間の流れ（予定）

学期	学習内容	考査
1学期	評論文（一） 語彙を増やす。 筆者の考えを的確に読み取る。 自分の考えを正確に相手に伝える。 問題演習により、評論文の読解力を養う。	1学期中間試験
1学期	小説（一） 語彙を増やす。 心情表現を手がかりにして、作者の思想を読み取る。 問題演習により、小説の読解力を養う。	1学期期末試験
2学期	評論文（二） 語彙を増やす。 構成に注意して筆者の考えを的確に読み取る。。 聞き取りやすさに配慮した発表をする。 問題演習により、評論文の読解力を養う。	2学期中間試験
2学期	小説（二） 語彙を増やす。 心情表現を手がかりにして、作者の思想を読み取る。 問題演習により、小説の読解力を養う。	2学期期末試験
3学期	問題演習 評論文、小説の読解力を高める。	

世界史Ｂシラバス（３年次　文科類型　選択　４単位）

１．学習の到達目標

①世界の歴史の大きな枠組みと流れを，日本の歴史と関連付けながら理解できる。

②文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察することができる。

③上記の目標を達成するための主体的・探究的学習を通して，歴史的思考力を培い，国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を形成することができる。

２．学習上の留意点（アドバイス）

世界史は「世界の諸地域の文化的枠組みがどのように形成され，変化してきたのか。また世界の諸地域の関係が現在のようになったのはなぜか」を問う姿勢が大切です。諸地域や各時代の具体的な人物や国家，出来事や制度等膨大な知識を関連付け体系的に学ぶことは大変ですが，現代世界が前の時代とどのように違う特徴を持っているのかを理解できるようになるためにも，次の点に注意し楽しみながら世界史の学習に取り組んでください。

①授業前の予習・復習

教科書・図表・プリントで前回の学習内容と本日の学習内容を確認し，友人とそのことについて語ること。歴史は流れやつながり，異なる見方が重要なため習慣づけるようにすること。

②授業

集中して話を聞き，ノート・プリントは工夫してとり，疑問に思ったことはその場で質問すること。世界史は，教科書を読んだだけで理解できる教科ではありません。体系的に整理しながら学習することが重要です。

③復習

教科書・プリント，問題集(10分間テスト)等を使って，学習した範囲すべてについて，毎日復習すること。繰り返すことで知識は定着します。日々の復習での知識定着が大学受験への対応になります。

３．評価方法

①定期試験（中間試験・期末試験　年５回）　約80％

②学習意欲・授業態度・提出物・課題等　約20％

③実力テスト（夏休み明け）を10点段階評価として学年末評価に組み入れる

４．授業形態

選択者によるクラス編成・一斉授業

５．使用教材

教科書　『詳説　世界史Ｂ』（山川出版社）

資料集　『アカデミア世界史２０１９年度』（浜島書店）

問題集　『詳説世界史１０分間テスト』（山川出版社）

学期	学習内容	考査
第1学期	第６章　内陸アジア世界・東アジア世界の展開　1　トルコ化とイスラーム化の進展 2　東アジア諸地域の自立化 3　モンゴルの大帝国	第1学期中間試験
	第７章　アジア諸地域の繁栄　1　東アジア世界の動向 2　宋代の中国と隣接諸地域 3　トルコ・イラン世界の展開 4　ムガル帝国の興隆と東南アジア交易の発展	
	第８章　近世ヨーロッパ世界の形成　1　ヨーロッパ世界の拡大 2　ルネサンス 3　宗教改革 4　ヨーロッパ諸国の抗争と主権国家体制の形成	第１学期期末試験
	第９章　近世ヨーロッパ世界の展開　1　重商主義と啓蒙専制主義 2　ヨーロッパ諸国の海外進出 3　17～18世紀ヨーロッパの文化と社会	
第2学期	第10章　近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立　1　産業革命 2　アメリカ独立革命 3　フランス革命とナポレオン	第２学期中間試験
	第11章　欧米における近代国民国家の発展　1　ウィーン体制の成立 2　ヨーロッパの再編と新統一国家の誕生 3　南北アメリカの発展 4　19世紀欧米の文化	
	第12章　アジア諸地域の動揺　1　オスマン帝国支配の動揺と西アジア地域の変容 2　南アジア・東南アジアの植民地化 3　東アジアの激動	
	第13章　帝国主義とアジア民族運動　1　帝国主義と列強の展開 2　世界分割と列強対立 3　アジア諸国の改革と民族運動	第２学期期末試験
	第14章　二つの世界大戦　1　第一次世界大戦とロシア革命 2　ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 3　アジア・アフリカ地域の民族運動 4　世界恐慌とファシズム諸国の侵略 5　第二次世界大戦	
	第15章　冷戦と第三世界の独立　1　戦後世界秩序の形成とアジア諸地域の独立 2　米ソ冷戦の激化と西欧・日本の経済復興 3　第三世界の台頭と米・ソの歩み寄り 4　石油危機と世界経済の再編	
第3学期	第16章　現在の世界　1　社会主義世界の変容とグローバリゼーションの進展 2　途上国の民主化と独裁政権の動揺 3　地域紛争の激化と深刻化する貧困 4　現代文明の諸相	レポート 各自が主題を設定

日本史Ｂ（３年次 文系選択 ４単位）

１．科目のねらい

日本史Ｂでは、原始時代からを学習範囲とし、日本歴史の展開を世界情勢と関連づけて考察し、歴史的思考力を培うことを目的とする。

具体的には３年次は織豊政権から現代までを対象に、中世武家社会の確立までの成長過程から現代社会が成り立つ過程を中心に海外との関わりを通して日本の発展の歴史を学んでいきます。

２．学習上の留意点

・ 授業では歴史の大きな流れをつかむ（理解する）ことに重点を置くこと。
・ 授業のあった日には必ず復習(教科書・図表・ワーク等)を行うこと。

３．評価方法

80～90%　定期試験・実力テスト
10～20%　学習意欲・態度、課題の提出、小テスト等

４．授業形態

・一斉授業を主とする

５．使用教材

教科書：改訂版　詳説日本史Ｂ　山川出版社
図　表：新詳日本史　浜島書店
史料集：改訂版　詳録新日本史史料集成　第一学習社

月	学習項目	到達目標	評価方法
4	6-1　織豊政権 6-2　桃山文化 6-3　幕藩体制の成立	・南蛮文化が与えた影響を理解できる。 ・兵農分離が進み、近世的な封建制度の基礎が確立したことを理解できる。	
5	7-1　幕政の安定 7-2　経済の発展 7-3　元禄文化	・幕藩体制の仕組みや、文治政治への転換に至る過程について理解できる。 ・社会経済が発展したことを理解できる。 ・文化の発展の背景と文化の特徴と作品名を理解・判別できる。	ノート提出 授業態度 １学期中間試験
6	8-1　幕政の改革	・享保の改革、田沼政治、寛政の改革の諸政策とその特徴について理解できる。	
7	8-2　幕府の衰退 8-3　化政文化 9-1　開国と幕末の動乱	・欧米列強接近事件と幕藩体制が大きく動揺したことを理解できる。 ・化政文化が開花したこと理解し、文化の特徴と作品名を理解・判別できる。 ・開国による政治・経済・社会への影響について理解できる。	ノート提出 授業態度 １学期期末試験
9	9-2　明治維新と富国強兵 9-3　立憲国家の成立と日清戦争 9-4　日露戦争と国際関係 9-5　近代産業の発展	・中央集権体制の確立と文明開化の内容について理解できる。 ・明治初期の国際問題や大日本帝国憲法下の政治体制について理解できる。 ・列強の中国分割と日露戦争を戦うようになった国際関係を理解できる。 ・産業革命の過程について理解できる。	
10	9-6　近代文化の発達 10-1　第１次大戦と日本 10-2　ワシントン体制 10-3　市民文化 10-4　恐慌の時代	・明治期の文化について理解できる。 ・政党政治の成立と協調外交成立の経緯を理解することができる。 ・各恐慌の特徴とブロック経済の形成の経緯を理解することができる。	ノート提出 授業態度 ２学期中間試験
11	10-5　軍部の台頭 10-6　第２次世界大戦 11-1　占領と改革	・帝国主義政策からの第２次大戦の勃発と国内状況を理解することができる。 ・敗戦にいたる経緯、戦後改革と経済復興について理解することができる。	
12	11-2　冷戦の開始と講和 12-1　55年体制 12-2　経済復興から高度成長へ	・冷戦体制下での独立回復と経済の立ち直り、高度経済成長時代の到来の経緯について理解することができる。	ノート提出 授業態度 ２学期期末試験
1		・問題演習	ノート提出 授業態度

世界史特講（3年次　文科類型　選択　2単位）

1．学習の到達目標

①第二次世界大戦（アジア・太平洋戦争）後の世界と日本を関連付けながら理解できる。

②現在の諸課題を第二次世界大戦（アジア・太平洋戦争）前後の展開過程から考察することができる。

③諸資料を活用する主体的・探究的学習を通して，歴史的思考力を培うことができる。

2．学習上の留意点（アドバイス）

世界史特講は上記の到達目標の他，大学受験に対応した力の育成を目的にします。よって次の点に注意して学習に取り組んでください。

①予習として指定された範囲の問題を教科書や図表などを使って解答しておくこと。

②問題演習と解説は大学受験本番を想定し真剣に取り組むこと。

③授業を通じて明確になった克服すべき点は家庭学習で補うこと。

3．評価方法

①定期試験（期末試験　年3回）　約80%

②学習意欲・授業態度・提出物・課題等　約20%

4．授業形態

選択者によるクラス編成・一斉授業

5．使用教材

教科書　『詳説　世界史B』（山川出版社）

資料集　『アカデミア世界史　２０１９年度』（浜島書店）

ウィニングコンパス　『世界史の整理と演習』（とうほう）

問題集　『詳説世界史１０分間テスト』（山川出版社）

学期	学習内容	考査
第1学期	１５章　冷戦と第三世界の独立 38　東西冷戦の始まりとアジア諸地域の自立 39　冷戦の激化と西欧・日本の復興 40　第三世界の台頭と米・ソの歩み寄り	第1学期期末試験
第2学期	１５章　冷戦と第三世界の独立 41　石油危機と世界経済の再編 １６章　現在の世界 42　ソ連の解体とグローバリゼーション 43　途上国の民主化／地域紛争	第2学期期末試験
第3学期	テーマ設定をした主体的・探究的学習	提出レポート

日本史特講（３年次　文科類系 選択 ２単位）

１．科目のねらい

「日本史の整理と演習」中心に各単元のまとめと問題演習を行う。多くの問題演習をこなすことによって，受験に対応した力を身につける。

２．学習上の留意点

① 授業は集中すること。日本史の大量の知識を頭の中で整理するためには，授業を良く聞いて理解することが何より大切です。

② 日本史の学習は復習が中心です。参考書・サブノート・問題集などをそろえて，１日１５分でも良いから，日本史を学習する時間をつくりましょう。そうすれば，受験に対応できる力も必ず身につくはずです。

３．評価方法

約 90%～80%　定期試験（年４回）

約 10%～20%　提出物，学習意欲・態度など

４．授業形態

選択者によるクラス編成　一斉授業　問題演習など

５．使用教材

教科書『改訂版　詳説日本史Ｂ』山川出版社

サブノート『４ステージ演習ノート　日本史Ｂ』数研出版

月	学習項目	到達目標	評価方法
4	1　日本文化のあけぼの 2　律令国家の形成	・節の内容についての理解を深めるとともに、受験に対応できる力をつける ・問題演習	ノート・課題提出 授業態度
5	3　貴族文化と国風文化	・節の内容についての理解を深めるとともに、受験に対応できる力をつける ・問題演習	ノート・課題提出 授業態度 １学期中間試験
6	4　中世社会の成立	・節の内容についての理解を深めるとともに、受験に対応できる力をつける ・問題演習	ノート・課題提出 授業態度
7	5　武家社会の成長	・節の内容についての理解を深めるとともに、受験に対応できる力をつける ・問題演習	ノート・課題提出 授業態度 １学期期末試験
9	6　幕藩体制の確立	・節の内容についての理解を深めるとともに、受験に対応できる力をつける ・問題演習	ノート・課題提出 授業態度
10	7　幕藩体制の展開 8　幕藩体制の動揺	・節の内容についての理解を深めるとともに、受験に対応できる力をつける ・問題演習	ノート・課題提出 授業態度 ２学期中間試験
11	9　近代国家の成立 10　近代日本とアジア	・節の内容についての理解を深めるとともに、受験に対応できる力をつける ・問題演習	ノート・課題提出 授業態度
12	11 戦後の日本と国際社会	・節の内容についての理解を深めるとともに、受験に対応できる力をつける ・問題演習	ノート・課題提出 授業態度 ２学期期末
1		・節の内容についての理解を深めるとともに、受験に対応できる力をつける ・問題演習	ノート・課題提出 授業態度

現代社会特講（３年次　文科類型・理科類型　選択　２単位）

１．科目のねらい

(1) 現代社会の基礎的・応用的実力を養成する。
(2) 教科書では扱わない重要で代表的な問題を通すことで、幅広い対応ができる能力を養成する。

２．学習上の留意点

現代社会の学習内容を理解するためには，たくさんの情報の中から，適切でより正確な情報を自ら選択することが大切である。

(1)予習
①常にインターネットやテレビ・新聞などのマスメディアを通じての情報収集をしよう。
②教科書を読んで，その内容を予め理解しよう。
③現実の出来事を自分の事と照らし合わせて考えてみよう。
(2)授業中
①先生の話をよく聞き，気になる点・大事だと思ったところなどは必ずプリントなどに記入し，難しい言葉は先生に質問するようにしよう。
②とにかく先生の話を注意深く聞き，授業の内容を理解する。
③予習段階で空けておいたプリントやノートなどのスペースに，語句や図を書き入れ，先生の板書や話の中で重要なことをメモしよう。
(3)復習
①学習した内容についての事柄（キーワード）を，インターネットなどで調べたり，新聞の切り抜きなどを行ったりしよう。
②自分なりにノート作りをし，年表や思想などの図式化を行うなどして，理解し，重要な用語は覚えるようにしよう。

３．評価方法

定期試験，課題を追究する学習，課題プリントへの取り組み状況などの割合評価。
(1)定期試験８割，平常点２割とする。
(2)平常点は出席状況・授業態度・レポート・ファイル検査による。

４．授業形態

(1) 一斉授業
(2)学習内容によってはグループ活動

５．使用教材

(1) 「現代社会」（東京書籍）
(2) 「地歴高等地図」（帝国書院）
(3) 「最新現代社会資料集　２０１８」（第一学習社）

現代社会特講（３年次 文科類型・理科類型　選択 ２単位）

月	学習項目	到達目標	評価方法
4 5	問題演習（センター過去問題等） 〔国際政治・国際経済分野〕 第５章　国際社会と人類の課題 1.国際政治のしくみと動向 国際社会の特質 国際紛争を避けるしくみ 国際連合と安全保障 国際連合の役割と課題 冷戦とその後の世界 軍縮への取り組み	過去の問題から，分野別に傾向と対策を考える。 ・国際社会の仕組みを把握する。 ・国際政治の諸問題について，その問題の理解を深めるために歴史的経緯を理解しようとする。 ・授業で学習したここと，新聞やテレビで話題になっていることとを結びつけて考えることができるようにする。	定期試験評価，課題を追究する学習，課題プリントへの取り組み状況などの割合評価 定期試験８割，平常点２割とする。 平常点は出席状況・授業態度・レポート・ノート検査による。
6	2.国際経済のしくみと動向 貿易と国際分業 外国為替のしくみと国際収支 戦後国際経済の枠組みとその変化 対立と強調の時代 グローバル化する経済	・第二次大戦後の国際経済がどのような原則に基づいて運営されてきたかについて理解する。 ・国際経済の諸問題について考察し，学習内容が現在の課題とつながっていることが理解できる。 ・グラフや統計資料の読み方をマスターする。	
7 8 9	3.国際社会の現状と課題 地域統合の進展 変容する世界経済 国際的な格差の是正 地域紛争と難民問題 国境をこえて広がる地球規模の課題 日本の役割	・国際社会における日本人の役割について考える。 ・現代経済の問題について，その問題の理解を深めるために経済理論や歴史的経緯を活用する。 ・授業で学習したここと，新聞やテレビで話題になっていることとを結びつけて考えることができるようにする。	定期試験評価，課題プリントへの取り組み状況などの割合評価 定期試験８割，平常点２割とする。平常点は出席状況・授業態度・レポート・ノート検査による。
10 11	〔経済分野〕 第２章　現代の経済社会と経済生活 政府の役割と財政・金融 経済思想・国富と国民所得 雇用と労働問題 社会保障制度 公害の防止と環境保全 中小企業・農業・消費者問題 戦後日本経済の歩み	・現代の経済の仕組みを市場や国民経済の観点から解するとともに，日本の経済の動きを学び，政府による調整を必要とする消費者問題や雇用と労働，社会保障の現状と課題などについて考察する。 ・実践的な問題演習を行い、知識の定着を図る。	
12	総合問題演習	入試問題の傾向と対策を考える。	２学期に準ずる。
1	〃	〃	

現代社会探究（３年次　文科類型　選択 ２単位）

１．学習の到達目標

現代社会の成り立ちの歴史的背景を学習し、現代社会の特徴を理解させる。現在の地域社会、日本、国際社会が抱えるそれぞれの課題について多方面から幅広く考察し、生きる力を養成する。

２．学習上の留意点

○予習・復習はあえて必要ない。毎時間の授業に集中して臨み、その時間内で理解に努め、不明事項を残さないようにする。

○課題は決められた時間内で仕上げるよう努力する。

３．評価方法

８０％　定期試験

２０％　学習意欲、課題提出

４．授業形態

選択者による一斉授業。課題解決学習に重きを置く。

５．使用教材

独自作成教材、教科書「現代社会」、地図帳

６．一年間の流れ

A:関心・意欲・態度　B:思考・判断　C:資料活用能力　D:知識・理解

月	学習項目	到達目標	評価方法
4	・国際社会の基本 ・世界の分類	・ボーダーレス化の進む世界の「ボーダー」を知る。(D)	課題の到達度 １学期中間試験
5	・世界の文化圏 ・宗教による分類 ・仏教、キリスト教、イスラム教、神道	・世界の文化圏の形成について理解する。(D) ・各宗教の特徴を知る。(D)	課題の到達度 １学期中間試験
6	・世界の民族紛争	・世界の民族紛争について、それぞれの原因、経過、結果について知り、国際平和のあり方について考察する。(D)	課題の到達度 １学期期末試験
7	・海外旅行計画	・１学期の学習事項を盛り込んだ旅行を計画し、現地を訪れてその様子を具体的に知る。(A・C)	課題の到達度
9	・南北問題	・先進工業国（北）と発展途上国（南）の経済格差について原因と現状について考察する。(D)	課題の到達度
10	・主要国の社会	・アメリカ合衆国および中国の社会の成り立ちとその特徴について知る。(B)	課題の到達度 ２学期期末試験
11	・冷戦と戦争	・朝鮮戦争とベトナム戦争に代表される代理戦争の実態を知り、平和社会について考察する。	課題の到達度 ２学期期末試験
12	・年中行事	・消えていく日本の年中行事について家庭レベルから地域・国家レベルにいたるまで幅広く取り上げ、その意義について考察する。(A・D)	提出物で評価
1	・自由研究	レポート提出（A・C）	提出物で評価
2			
3			

文系数学シラバス（３年次 文科類型 選択 ４単位）

１．科目のねらい

過去の入試問題の中から、教科書程度の基本的な内容および、教科書の発展問題を解くことで、受験に対する数学の力をさらに伸ばす。必要に応じて基礎の復習も行い、定着をはかる。

２．学習上の留意点

・予習を必ず行い自分の弱点を把握して授業に臨む。

・復習を行い、自分の弱点の克服をするとともに、定着を図る。

３．評価方法

相対評価にて評定を決定する。

50 ～ 80 %　定期試験（中間試験、期末試験、到達度確認テスト）

20 ～ 50 %　小テスト、学習意欲・態度、課題の提出

ただし、その期間に学習した単元を含む科目の評価のみを行う

４．授業形態

選択者で一斉授業を行う

５．使用教材

問題集　PLAN １００ 数学Ⅰ・A＋Ⅱ・B（数研出版）

６．一年間の流れ(予定)

テキストに沿って数学ⅠAおよび数学ⅡBの内容をそれぞれ２単位ずつで進めていく。

１・２年次に履修した内容を復習し、弱点の克服と受験に対応できる応用力を身につける。

学期	学習内容	試験
第１学期	【数学Ⅰ・A・Ⅱ・Bの演習】 ・授業に取り組む姿勢 【関心・意欲・態度】 ・課題提出 【数学的な見方・考え方】 ・小テスト 【知識・理解】【数学的な表現・処理】 ・１学期中間試験	第１学期中間試験
	【数学Ⅰ・A・Ⅱ・Bの演習】 ・授業に取り組む姿勢 【関心・意欲・態度】 ・課題提出 【数学的な見方・考え方】 ・小テスト 【知識・理解】【数学的な表現・処理】 ・１学期期末試験	第１学期期末試験
第２学期・第３学期	【数学Ⅰ・A・Ⅱ・Bの演習】 ・授業に取り組む姿勢 【関心・意欲・態度】 ・課題提出 【数学的な見方・考え方】 ・小テスト 【知識・理解】【数学的な表現・処理】 ・２学期中間試験	第２学期中間試験
	【共通テスト直前演習】 形式の問題演習を行い，時間配分等を身につける	第２学期期末試験

総合理科（３年次 文科類型４単位）

１．科目のねらい

理科の生物基礎と化学基礎の既習事項の演習を通して、受験に向けた基礎力を養う。

２．学習上の留意点

・問題演習を中心に学習する。

・問題集をくり返し解き、知識を正確に身に付ける。

・データを読み取り、自分の頭で洞察し、考察する。

３．評価方法

60 ～ 90 %　定期試験（年５回）

10 ～ 40 %　小テスト、学習意欲・態度、課題の提出

４．使用教材

改訂版　新編　化学基礎（数研出版）

チェック＆演習　化学基礎（数研出版）

改訂版　生物基礎（数研出版）

チェック＆演習　生物基礎（数研出版）

５．授業計画

生物分野（2 単位）

学期	学　習　内　容	考査
4月｜10月	予備学習 ①顕微鏡観察の基本操作　②ミクロメーターによる測定 第1章　生物の特徴 ①生物の多様性と共通性　②エネルギーと代謝　③光合成と呼吸 第2章　遺伝子とそのはたらき ①遺伝情報とDNA　②遺伝情報の発現　③遺伝情報の分配 第3章　生物の体内環境 ①体内環境としての体液　②腎臓と環境による調節 ③神経とホルモンによる調節　④免疫 第4章　植生の多様性と分布 ①植生とその成り立ち　②植生の遷移　③気候とバイオーム 第5章　生態系とその保全 ①生態系とその成り立ち　②物質循環とエネルギーの流れ ③生態系のバランスと保全	１学期中間試験 １学期期末試験 2学期中間試験
11月｜2月	大学入学共通テスト対策（総合的な演習）	２学期中間・期末試験

化学分野（2 単位）

学期	学　習　内　容	考査
4月｜10月	化学計算の基礎① 元素と周期表 原子と電子配置 物質と化学結合 物質量と化学反応式 酸と塩基 酸化還元反応	１学期中間試験 １学期期末試験 2学期中間試験
11月｜2月	大学入学共通テスト対策（総合的な演習）	２学期中間・期末試験

体育（３年次 必修　２単位）

１．科目のねらい

各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正・協力・責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。

２．学習上の留意点

・体育は実技科目であるため欠席はしないこと。
・しっかりとした服装・態度で授業に臨むこと。
・授業をしっかりと受けるために常日頃からの体調管理に気をつけること。
・見学者は見学授業についてのレポートを提出すること。

３．評価方法

実技試験、レポート、意欲・関心・態度

４．授業形態

パートごとによる一斉授業

５．使用教材

アクティブスポーツ

月	学習項目	到達目標	評価方法
4 5	オリエンテーション 体つくり運動	・体育の授業に関する注意事項、年間計画、評価について理解する。 ・自分の体に気付き、体力を高める事ができるようにする。	実技試験、レポート、 意欲・関心・態度
6 7	球技・武道	・各自が選択した種目の個人技能、集団技能を修得し、発展させる。 ・武道における身に沿けた礼法や技能を発展させる。	
8 9	陸上競技（長距離走）	・自分の体力を把握し、長い距離を継続して走る事ができるようにする。 ・決められた時間や距離において、可能な限り速く走る事ができるようにする。	実技試験、レポート、 意欲・関心・態度
10 11	球技・武道 体育理論	・各各自が選択した種目の個人技能、集団技能を修得し、発展させる ・自分の技能を把握し、可能な限り多くの技を習得する。 ・スポーツライフの設計のしかたについて理解する。	 筆記試験、レポート 関心・意欲・態度
12 1 2	スケート （ホッケー・フィギュア）	・ホッケーにおける基本的な個人技能、集団技能を修得する。 ・習得した技能を生かし、創作演技につなげる。	実技試験、レポート、 意欲・関心・態度

※学習項目は授業進度・天候等の状況によって変更の可能性あり。

スポーツ運動学（３年次 選択 ２単位）

１．科目のねらい

各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正・協力・責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。

２．学習上の留意点

・スポーツ運動学は実技科目であるため欠席しないこと。
・しっかりとした服装・態度で授業に臨むこと。
・授業をしっかりと受けるために常日頃からの体調管理に気をつけること。
・見学者は見学授業についてのレポートを提出すること。

３．評価方法

実技試験、レポート、意欲・関心・態度

４．授業形態

一斉授業

５．使用教材

アクティブスポーツ

月	学習項目	到達目標	評価方法
4 5 6 7	オリエンテーション 陸上競技 器械運動 球技 武道 ダンス 体育理論(運動計画作り、応急手当、ウエイトトレーニング、指導実践、屋外活動等)	・スポーツ運動学の授業に関する注意事項、年間計画、評価について理解する。 ・社会の変化とスポーツについて理解する。 ・運動技能の構造と運動の学び方について理解する。 ・自らの能力・適正や興味・関心などに応じて自分で学習する種目を選び、その運動の適性や文化的特性を身につけ、他社へ発信していく。	実技試験、レポート、 意欲・関心・態度
8 9 10 11 12	オリエンテーション 陸上競技 器械運動 球技 武道 ダンス 体育理論	・2学期の授業計画について理解する。 ・自らの能力・適正や興味・関心などに応じて自分で学習する種目を選び、その運動の適性や文化的特性を身につけ、他社へ発信していく。 ・自己の体力や生活に応じて技能の向上を目指す。	実技試験、レポート、 意欲・関心・態度
1 2	体育理論	・自らの能力・適正や興味・関心などに応じて自分で学習する種目を選び、その運動の適性や文化的特性を身につけ、他社へ発信していく。	実技試験、レポート、 意欲・関心・態度

＊学習項目は授業進度・天候等の様々な状況によって変更の可能性あり

音楽Ⅲシラバス（３年次　選択２単位）

1．学習の到達目標

音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情と音楽文化を尊重する態度を育てるとともに、感性を磨き、個性豊かな音楽の能力を高める。

① 楽曲の表現内容を総合的に理解し、表現意図をもって創造的に歌う、また演奏できること。

② 音楽の構造上の特徴と美しさとのかかわりを理解して鑑賞すること。また現代の我が国及び諸外国の音楽の特徴や、音楽と他の文化とのかかわりを理解して鑑賞すること。

③ 様々な様式や演奏形態の特徴を理解し、音楽材や表現効果を生かした構成を工夫して、表現意図をもって個性豊かに音楽を作ること。

2．学習上の留意点

音楽Ⅰ・音楽Ⅱで学習した内容をふまえ、音楽的な能力を高めるとともに、それぞれの個性や興味関心を生かした主体的な活動を展開します。実技試験も発表形式をとります。友人の演奏を聴きあうことで互いに刺激し合い、表現する喜びを味わってください。また、音楽の理解を深めるための理論的な学習にも取り組みます。積極的に表現する時間と、集中して話を聞いて学習に取り組む時間とをしっかり区別して、メリハリのある姿勢で学習していきましょう。

3．評価方法

① 実技試験（活動に応じて各学期１回～複数回実施）６０％

② 小テスト（活動に応じて実施）２０％

③ 学習意欲・態度・提出物等　２０％

4．授業形態

２年次に履修した科目（音楽Ⅱ）を継続履修します。芸術系進学希望者、または音楽に関心の強い者を対象とします。

5．使用教材

教科書　Joy of Music（教育芸術社）

音楽ノート

配布プリント

6．１年間の流れ（予定）

学期	学習内容	考査
第１学期	【歌唱】・日本の歌曲 ・子どもの歌 ・舞台芸術の歌 【器楽】・ギター演習 ・キーボード演習 【鑑賞】・ルネサンスの音楽 ・バロックの音楽 【楽典】・コードネーム ・ソルフェージュ	第１学期末考査
第２学期	【歌唱】・発声の基礎 ・二重唱 【器楽・創作】・コードネームを基に伴奏を工夫しよう 【鑑賞】・古典派の音楽 ・ロマン派の音楽 ・曲の背景を知ってロマン派以降の交響曲を聴こう 【楽典】・音楽理論 ・ソルフェージュ	第２学期末考査
第３学期	【歌曲】・日本のポップス ・外国のポップス 【鑑賞】・20世紀の音楽 ・舞台芸術の鑑賞	第３学期末考査

美術Ⅲ（３年次 選択２単位）

１．学習の到達目標

美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情と美術文化を尊重する態度を育てるとともに、感性と美意識を磨き、個性豊かな美術の能力を高める。

２．学習上の留意点（アドバイス）

美術ⅢはⅠ・Ⅱの学習内容を踏まえ、さらに内容を深めます。造形的な力を深める学習はもちろん独創的に考えることや個性を生かすことを意識した内容の授業となります。自分の意思をはっきりと定め、それに向かって取り組めるように自覚を持ち、主体的に学習活動ができるよう心がけてください。

①絵画・彫刻

独創的な主題を生成し、表現の構想を練る。主題に合った表現方法を工夫して個性を生かして創造的な表現を追求する。

②デザイン

デザイン効果を考えて独創的な主題を生成し表現の構想を練る。主題に合った表現方法を工夫し、個性を生かして創造的なデザインを追求する。

③鑑賞

作者の主張、作品と時代や社会とのかかわりなどを考察し、自己の価値観、美意識を働かせて作品を読み取り味わう。国際理解に果たす美術の役割の理解や文化遺産としての美術の特色と文化遺産等を継承し保存することの意義を理解する。

３．評価方法

制作した作品（実技）をもとに、授業への取り組み、提出物を含め、観点別に評価します。

①提出作品　約８０％

②プリント提出、授業への取り組み（意欲・関心・態度）約２０％

４．授業形態

選択者による授業　（２年次に美術Ⅱを履修した者）

５．使用教材

教科書：高校生の美術３（日本文教出版）、配布プリント

６．一年間の流れ（予定）

学期	学習内容	考査
第１学期	構成デッサン ・対象物を構成することにより画面の奥行や空間を表現する ・形態を構造から意識したタッチで表現する ・素材や物体の構造を観察し、その特徴を生かした豊かな画面構成を構想する ・絵画空間のあり方を感じ取り、自由な発想により創造を深める	第１学期末考査
第２学期	ポスター制作・平面構成 ・既存の様々なデザインに関心を持ち、デザインの内容や成り立ちを考えデザインに込められたコンセプトを探る ・デザインの問題点や可能性を考慮し構想を練る ・作品に込めた自分の表現意図をまとめ発表する ・互いの作品のよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫について考えをまとめ、意見を交換する	第２学期末考査
第３学期	自由課題　作家研究からの発展 ・教科書に紹介された作家のインタビューを読み、作家の生き方・考え方にふれる ・自分の進路に関連する作家を探し、興味のある人物について研究発表する ・アイディアスケッチをもとに、自由課題の制作の方向性・計画をたてる ・制作準備、作品コンセプト等をプリントにまとめる ・制作に必要な用具等適切な素材の選択をする ・自分らしい自由な発想で制作に取り組む ・作品に込めた自分の表現意図をまとめる ・互いの作品のよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫について考えをまとめ、意見を交換する	第３学期末考査

芸術総合　音楽　シラバス（3年次　選択2単位）

1．学習の到達目標

音楽に関する専門的な学習を通して、感性を磨き、創造的な表現と鑑賞の能力を高めるとともに、音楽文化の発展と創造に寄与する態度を育てる。

① 音楽作品についての演奏研究を通して、演奏における客観性と多様性を理解し、音楽の様式を新調して演奏する能力を養う。

② 音楽を形づくっている要素を正しくとらえ、音楽性豊かな表現をするための基礎的な能力を養う。

③ 楽曲の表現内容を理解し、表現意図を明確にして創造的に表現する能力を養う。

2．学習上の留意点

それぞれの個性や興味関心を生かした主体的な活動を展開します。グループでの研究や演奏活動が主な内容になるので、一人一人が積極的に表現するとともに、協調性を持った姿勢が必要です。発表を通して友人の演奏から刺激を受け、また演奏を人に聞いてもらう喜びを味わってください。音楽理論やソルフェージュ等の専門分野の学習も行います。進路に応じて柔軟な学習を展開しますので、自分の進路希望を明確にし、目標をもって主体的に活動できるよう心がけてください。

3．評価方法

① 実技試験、発表会　６０％

② 小テスト　２０％

③ 学習意欲・態度・提出物等　２０％

4．授業形態

芸術系や保育系への進学希望者、実技試験が必要な者、音楽への関心が強い者を対象とし、複数クラス合同で実施します。

5．使用教材

配布プリント

6．1年間の流れ（予定）

学期	学習内容	考査
第1学期	【歌唱】　・発声の基礎 【器楽・創作】　・コードネームを基に伴奏を工夫しよう（個人創作） ・アレンジした楽曲を演奏しよう（グループ創作） 【楽典】　・音楽理論、コードネーム ・聴音	第1学期末考査
第2学期	【歌唱・器楽・鑑賞・創作】　グループ研究、発表会 ・発表会の企画 ・楽曲選び、楽曲のアレンジ ・器楽演習（個人、グループ） 【鑑賞】　・舞台芸術 【楽典】　・音楽理論 ・聴音、ソルフェージュ	第2学期末考査
第3学期	【歌唱・器楽・鑑賞・創作】 ・器楽演習 ・研究発表会	第3学期末考査

芸術総合　美術（３年次 選択２単位）

１．学習の到達目標

美術の創造的な活動を通して、芸術系の進路希望に即した基礎的技能を身につけることを目標とする

２．学習上の留意点

美術系大学・専門学校受験対応のデッサンや平面構成等の基本的技能、また色彩理論等を進路に応じて学習していきます。自分の進路希望を明確にし、常に目標をもって授業に臨みましょう。

①絵画・彫刻

独創的な主題を生成し、表現の構想を練る。主題に合った表現方法を工夫して創造的に表現する。デッサンを中心に形態や空間表現の基本を理解する。

②デザイン

デザイン効果を考えて独創的な主題を生成し表現の構想を練る。主題に合った表現方法を工夫し、個性を生かして創造的なデザインを追求する。平面構成では色彩や効果的な構成や配置の在り方を深める。

③鑑賞

作者の主張、作品と時代や社会とのかかわりなどを考察し、自己の価値観、美意識を働かせて作品を読み取り味わう。表現の目的や機能を確認し、発見、共感し造形的要素の伝わり方を深める。

３．評価方法

制作した作品（実技）をもとに、授業への取り組み、提出物を含め、観点別に評価する。

４．授業形態

芸術系進路希望者や実技試験が必要な者、特に関心が強い者を対象とし、授業を展開する。

５．使用教材

教科書：高校生の美術１、美術２　配布プリント

６．一年間の流れ（予定）

学期	学習内容	考査
第1学期	デッザン ・デッサンの対象となるモノの見方や構造について理解する ・パースペクティブについて理解する ・画面の構図や形態について鉛筆を用いて形の測り方を習得する ・陰影の描き方について理解する ・描く対象を観察し、テーマに沿って構図を決めることができる 色彩の基礎 ・色彩と生活の関係について考える ・色と視覚の関係について知る ・色の分類について理解する ・混色について理解する ・色の表示について理解する ・色の見え方や対比について理解する	第1学期末考査
第2学期	平面構成 ・美の秩序・構成の基本について理解する ・テーマを基に構想を練り、表現するコンセプトを決める ・コンセプトにあった構成要素を選択することができる ・与えられた条件を満たして色彩や形など造形的要素を基に工夫し制作する ・適切な用具の使用ができる	第2学期末考査
第3学期	デッサン ・自己表現や空間表現に必要なねらいをもって取り組む ・対象となる形を正確に捉え、描くことができる ・陰影と構造の関連を意識し描き方を工夫する ・細部描写や描きこみを意識し完成度を高める ・バルールを合わせた表現ができる	第3学期末考査

コミュニケーション英語Ⅲシラバス（3年次　必修2単位）

1 学習の到達目標

①学んだ表現を用いて、英文を効率的に読むことができる

②与えられたトピックについて、学んだ表現を使って自分の意見を表現できる

2 学習上の留意点（アドバイス）

英文を読み解いていく中で、様々な表現が効果的に使われていることを理解し、それを使えるようになることを目標に学習する。日本語と英語で共通して使うような表現と、英語特有の文章の組み立てを意識しよう。

①授業前

・1・2年次の単語や文法を復習しよう。

②授業

・授業での活動を大切にしよう。

・出席する以上は発言をたくさんしよう。

③授業後

・学習した単語や表現、英文を、意味を取りながら音読してみよう。
和訳をして、自分の理解度のチェックをしてみよう。

3 評価方法

①定期試験年4回(1学期中間～2学期期末)　70~80%

②小テスト結果、学習意欲、態度、課題の提出など　20~30%

・2学期実力試験を学年末評価に含める。

4 授業形態

クラス一斉授業（適宜ペア、グループでの活動有り）

5 使用教材

教科書　Revised BIG DIPPER English Communication Ⅲ

副読本　共通テストリスニング分野別　10min.

受験対策（大学共通テストReading 40）

6 一年間の流れ

期間	単元		学習内容	CAN-DO
1学期中間	Lesson 1		・「駅弁の歴史」について概要を理解することが出来る。 ・文章中の表現の言い換えをすることが出来る。	
	Lesson 2		・「会話を続ける3つのテクニック」について概要を理解することが出来る。 ・追加・列挙の表現を正しく理解し、文構造を理解して運用することが出来る。	
			・追加・列挙の表現を使用して、与えられたトピックについて自分の意見を書くことができる(PT)	Grade 5 書くこと
	Lesson 3		・「血液型と性格の関係」について概要を理解することが出来る。 ・本文中やその他の文の中の例示の表現を抜き出すことが出来る。	
	リスニング		「共通テストリスニング分野別」 PART1（第1問～第6問B）	Grade 5 聞くこと
1学期期末	Lesson 4		・「フレッドとスーの動物園に対する意見」の概要を理解することが出来る。 ・討論でよく使うような表現を理解し、運用することができる。	
			・討論や意見交換に関する語を理解し、その場で正しく使うことが出来る。（PT）	Grade 5 話すこと（やり取り）
	Lesson 5		・「金原さんのレース」について、概要を理解することが出来る。 ・金原さんがゴールするまでを、時間的順序の語を元に理解することができる。	
	Lesson 6		・「植物の種の生存」について概要を理解することが出来る。 ・タンポポ、オオバコ、スミレそれぞれの世代を残す方法とその結果について因果関係を正しく理解することが出来る。	
	Lesson 7		・「各登場人物のレストランに対するレビュー」を正しく理解することが出来る。	
			・飲食店に対するレビューを自分の言葉で書くことが出来る。（PT）	Grade 6 書くこと
	Lesson 8		・「金継ぎ」について概要を理解することが出来る。 ・2つ以上の事柄を比較して論を進める対比の表現を正しく理解することが出来る。	
	リスニング		「共通テストリスニング分野別」 PART2第1部（第1回～第10回）	Grade 6 聞くこと
2学期中間	Lesson 9		・アルフレッド・ノーベルについての新聞記事と彼の決意について把握することが出来る。 ・譲歩の表現を正しく理解することが出来る。	
	Lesson 10		・リーフレットから美術館の展示の配置や注意事項についてを正しく把握することが出来る。 ・料金や時間など、利用者によって異なる必要な情報を正しく抽出することが出来る。	
	Lesson 13		・オーケストラに関する新聞記事の内容を正しく把握することが出来る。 ・headline, lead, bodyそれぞれの特徴を理解することが出来る。	
	Lesson 16		・「南極からのクルーズの広告」の概要を理解することが出来る。 ・広告から情報を得るときの注意点について理解することができる。	
	Lesson 18		・ミキの、「日本への海外からの観光客について」のプレゼンの内容を把握することが出来る。	
			・プレゼンテーションで使われる表現や流れを理解し、円滑にプレゼンテーションを行うことが出来る。(PT)	Grade 6 話すこと（発表）
	リスニング		「共通テストリスニング分野別」 PART2第2部（第11回～第20回）	Grade 6 聞くこと
2学期期末以降受験対策	スピードリーディング	L11	・アスリートの成功の鍵について把握することが出来る。 ・時間をかけずに本文を読み、要約をすることが出来る。 ・自らの勝負事の前の心情やルーティーンを英語で説明することが出来る。	Grade 6 読むこと
		L12	・メアリーの化石採取についての概要を正しく把握することが出来る。 ・似た発音の単語を正確に発音し分けることが出来る。 ・時間をかけずに本文を読み、要約をすることが出来る。	
		L14	・競泳水着と世界記録の関係について把握することが出来る。 ・正確な時系列で本文の内容を理解することが出来る。 ・時間をかけずに本文を読み、要約をすることが出来る。	
		L15	・ベニクラゲの不死のメカニズムについて把握することがで出来る。 ・不死についての自らの意見を述べることが出来る。 ・時間をかけずに本文を読み、要約をすることが出来る。	
		L17	・ケントン・リーが斬しい靴を考案するに至った背景を正しく把握することが出来る。 ・ケントン・リーが作った靴がどのようなものなのか、理解することが出来る。 ・時間をかけずに本文を読み、パラグラフごとに要約をすることが出来る。	
		L19	・ペットボトル飲料の問題と、各国の対応を把握することが出来る。 ・環境問題に関する自らの意見を書くことが出来る。 ・時間をかけずに本文を読み、パラグラフごとに要約をすることが出来る。	
		L20	・危機言語の概要と、日本においての危機言語について把握することが出来る。 ・時間をかけずに本文を読み、パラグラフごとに要約をすることが出来る。	
		L21	・宇宙ゴミの原因と、問題・人工衛星の重要性について把握することが出来る。 ・時間をかけずに本文を読み、パラグラフごとに要約をすることが出来る。	
	受験対策（大学共通テストReading 40）			

令和2年度　42期3年次　英語表現Ⅱ　シラバス

授業全体目標 様々な状況を想定して、自分の意見をまとめ、「話すこと」を中心に英語で発信することができる。						使用教材 POLESTAR English Expression II (数研出版)	
区分		単元	Target Grammar Expression	技能	学習到達目標	Can-do	自己評価
3年1学期	昨年度の復習	L0 P1L1 P1L2	句と節 前置修飾と後置修飾 時制 助動詞	PT	Show & Tell (speech)：ある製品の歴史について、時制及び助動詞を用いて発表することができる。	話すこと(発表)G4	A B C
				S	句と節、前置修飾と後置修飾を使い分け、あるものの材料を説明することができる。	話すこと (発表)G4	A B C
					自分がほっているものなど身近な話題について時制を用いて話すことができる。		
					与えられたトピックについて、相手の意見を積極的に聞き、質問するなど適切なやりとりができる。	話すこと(やりとり)G2	A B C
				W	自分の悩みについて友人に助言を求める手紙を、助動詞を用いて書くことができる。	書くこと G4	A B C
				R	ペットボトルと"NEWater"に関する英文を読んで、設問に答えることができる。	読むこと G4	A B C
				L	ペットボトルと"NEWater"に関する英文を聞いて、要点を聞き取ることができる。	聞くこと G4	A B C
		1学期中間		※	Review 1,2を含む。		
	プレゼンテーション&ライティング	P2L1	I can talk about human relationship	PT	Speech：理想の家族像について話すことができる。	話すこと(発表)G4	A B C
				S	自分の家族のルーツについて事前に調べたことを話すことができる。	話すこと (発表)G5	A B C
					日本の家族が抱える問題について話すことができる。		
					人間関係について話すときに有効な表現を使いながら話すことができる。		
				W	AREAに基づき、自分の意見を理路整然と書くことができる。	書くこと G4	A B C
					適切な接続表現を用いて、自分の意見を書くことができる。		
				LS	相手の考えを聞き取り、それに対して質問することができる。	話すこと(やりとり)G4	A B C
				L	ケネディの家族にまつわる話を聞き、要点をまとめることができる。	聞くこと G4	A B C
		P2L2	I can talk about food and cooking	PT	Presentation：おすすめの日本食について、画像や動画を用いて話すことができる。	話すこと(発表)G5	A B C
				S	日本食の魅力について自分の意見を交えながら話すことができる。	話すこと (発表)G5	A B C
					食情報語について日本と海外の事情を比較しながら話すことができる。		
				W	AREAに基づき、自分の意見を理路整然と書くことができる。	書くこと G4	A B C
				LS	レストランでの注文を想定して、クラスメイトとやりとりができる。	話すこと(やりとり)G4	A B C
					食事の誘いを、適切な表現を用いてすることができる。		
				L	インスタント食品にまつわる話を聞き、要点をまとめることができる。	聞くこと G4	A B C
		1学期期末					
3年2学期	ディスカッション&ライティング	P2L8	I can talk about language and culture	PT	Discussion：海外から日本に入ってきたものの是非について議論することができる。	話すこと(やりとり)G5	A B C
				S	どんなものが海外から入ってきたのか話すことができる。	話すこと (やりとり)G5	A B C
					日本語と外国語の類似点や相違点について話すことができる。		
					ディスカッションのフォームに従って話すことができる。		
				W	AREAに基づき、自分の意見を理路整然と書くことができる。	書くこと G5	A B C
					話し合った内容についてメモを取ることができる。		
				LS	相手の考えを聞き取り、それに対して質問や反論、まとめることができる。	話すこと(やりとり)G5	A B C
				L	ワンガリ・マータイさんにまつわる話を聞き、要点をまとめることができる。	聞くこと G5	A B C
		P2L9	I can talk about the media and entertainment	PT	Discussion：最近気になったニュースについて議論することができる。	話すこと(やりとり)G5	A B C
				S	紹介したいウェブサイトやアプリについて話すことができる。	話すこと (やりとり)G5	A B C
					自分の興味関心について、視覚資料を用いて説明することができる。		
					ディスカッションのフォームに従って話すことができる。		
				W	AREAに基づき、自分の意見を理路整然と書くことができる。	書くこと G5	A B C
					話し合った内容についてメモを取ることができる。		
				LS	相手の考えを聞き取り、それに対して質問や反論、まとめることができる。	話すこと(やりとり)G5	A B C
				L	様々な媒体のニュースと見比べ、要点をまとめることができる。	聞くこと G5	A B C
					「みにくいアヒルの子」にまつわる話を聞き、要点をまとめることができる。		A B C
		2学期中間					
		P2L10	I can talk about history and tradition	PT	Discussion：外国人観光客が日本で行くべき場所について議論することができる。	話すこと(やりとり)G5	A B C
				S	日本各地の観光スポットについて、視覚資料を用いて話すことができる。	話すこと (やりとり)G5	A B C
					日本の観光地及び観光業が抱える問題について話すことができる。		
				W	AREAに基づき、自分の意見を理路整然と書くことができる。	書くこと G5	A B C
					話し合った内容についてメモを取ることができる。		
				LS	相手の考えを聞き取り、それに対して質問や反論、まとめることができる。	話すこと(やりとり)G5	A B C
	ディベート&ライティング	P5L4	I can take part in a debate	PT	Debate：与えられたトピックについてディベートをすることができる。	話すこと(やりとり)G6	A B C
				S	Affirmative, Negativeのそれぞれの立場でテーマについて意見を述べることができる。	話すこと (やりとり)G6	A B C
					ディベートの各ステップ(construction, question, attack, defense, summary)の形式に合わせて意見を述べることができる。		
					主張文と支持文を区別しながら主張をすることができる。		
				W	AREAを用い、具体的な例示をしながら英文を書くことができる。	書くこと G6	A B C
					テーマの良い点と悪い点を書くことができる。		
					相手の発言を聞き、要点をまとめることができる。		
				LS	相手の意見を理解し、それに対する質問および反論をすることができる。	話すこと(やりとり)G6	A B C
		2学期期末					
3年3学期	共通テスト対策など	・使用教材は『2021年受験用　大学入学共通テスト[英語(筆記)]対策オリジナル問題集　Reading 40』を中心に据えるが、他の教材も併用しながら指導する。					
評価方法		評価は年間4回の定期試験と夏休み明けの実力テスト及び授業内で実施するパフォーマンステストや提出物などを総合して判断する。 ※本授業は「話すこと」を主体とするため、間違いを恐れずに積極的に取り組みましょう！					

富士河口湖高校　令和2年度　英会話基礎　シラバス

1. 本科目の目標

①英語を楽しく学ぶ
・・・さまざまな教材を用いて、英語の音や文に慣れ親しみ、楽しく英語を学習する。

②コミュニケーションを通して学ぶ
・・・JTEやALT、クラスメートと積極的にコミュニケーションをとることを通して英語を学ぶ。

③使える英語を学ぶ
・・・卒業後にさまざまな場面で英語を使用していくことを想定しながら、実生活に活用できる英語を学ぶ。

2. 学習上の留意点

文法知識や英語の正しさよりも、積極的に英語を使おうとする態度を重視します。各トピックのゴールを達成するために、臆さず英語を発しようとする態度を常にもつこと。失敗することを恐れないこと。この授業において失敗とは、間違った文法を使うことではなく、自らコミュニケーションに臨まない様子のことを指します。また、課される課題や提出物に丁寧に取り組むこと。

3. 評価について

1　Performance test (PT)、Journalの提出、授業時の発言の3つの観点から、学期ごとに総合的に評価する。
2　PTの詳しい評価規準はそれぞれのテストで出されるRubricを参照すること。

※PTがかなりありますが、学習上の留意点でも述べた通り、ゴール達成のためにどれだけ積極的に英語を用いたかの態度を重視しています。PTのために必要なことは授業で練習するので、主体的に参加していきましょう。

4. 授業時の持ち物

筆記用具、辞書、ノート、ジャーナル（初回に配付）、名札（初回に配付）、A4ファイル

5. 年間スケジュール

区分	内容		学習到達目標	自己評価
1学期	Warm up	授業オリエンテーション	授業内容、学期ごとの英語活動プロジェクトの紹介	A B C
		紹介	海外の人の自己紹介に習って、内容のある自己紹介、他己紹介ができる。	A B C
		PT：自己紹介や質問を通して会話を一定時間続けることができる。		
	Survival English	道案内	道案内に関わる表現を学び、使うことができる。	A B C
		PT：目的地までの道案内をしたり道を聞いたりすることができる。		
		旅程	海外旅行の旅程を詳細に組み、紹介することができる。	A B C
		PT：作成した旅程を紹介することができる。		
		注文	食事などの注文をする際の表現を学び、使うことができる。	A B C
		買い物	買い物をする際の表現を学び、使うことができる。	A B C
		PT：状況に合わせて食事の注文をしたり買い物の情報を得たりすることができる。		
		緊急時	緊急時に必要な表現を学び、使うことができる。	A B C
2学期		総まとめ	これまでの内容を用いて、旅行のスキットを作成し、発表することができる。	A B C
		PT：旅行のスキットを作成し、発表することができる。		
	output to society	Film 制作（⑤でPTの実施）	1学期で学んだ表現を活用しながら、河高の紹介映像を作成することができる。 ①1学期で学んだ表現の復習 ②様々な英語の映像資料の収集、分析 ・本物の英語の映像を観て、内容を理解することができる。 ③紹介内容の選択 ④映像制作、編集 ⑤発表・批評 ・制作した映像について英語で説明をすることができる。 ・他のグループの映像について英語で質問をしたり意見を述べたりすることができる。	A B C
11～12月		ディスカッション	映像制作の学習などをもとに、グループで意見交換をすることができる。 （建設的なコメントを英語で述べることができる。）	A B C
		PT：ひとつのトピックについて、自分の考えを英語で述べることができる。		
1月		プレゼンテーション	卒業後の進路や将来の夢について、発表することができる。	A B C

通年	自己表現練習(HW)	Journal 与えられたトピックに対して自分の考えを英語で書いて伝えることができる。	A B C
不定期	映画、歌、新聞、インターネットなどを教材として英語を学びます。		

英語総合研究(3年次　選択2単位)

1 学習の到達目標

学んだ表現や解法を用いて英文を読み、それに対する難解な問題に正確に答えることができる。

2 学習上の留意点(アドバイス)

英語はコミュニケーションのための道具ですが、本授業では特に、英文の筆者の言いたいことを正確に把握し、それに対する問いに正確に答えられる力を鍛えます。1、2年生で習ってきたことを総復習して定着させ、「問題に正答すること」までを目標とします。授業内容が難しいと感じる人は、1、2年生の内容を復習してください。それが、本授業の「予習」になります。

①授業前
- 1、2年生の復習(オンタン・Focus Finder、英表の内容など)

②授業
- 「問題を解く→解説」の流れの中で、自分があとで復習しやすい工夫をしよう。
(問題を解きながらあとで復習するべき問題に印を付ける、解説のメモをさらに取る、など)

③授業後
- 基本的に、授業では一度やったところには戻りません。1週間後、1ヶ月後、自分で同じ問題を解いていくと、それが良質な復習になります。

3 評価方法

①定期試験年4回(1学期中間～2学期期末)	80~90%
②小テスト、学習意欲、態度、課題の提出など	10~20%

4 授業形態

パート展開(進度によってパート変更有り)

5 使用教材

教科書　Revised BIG DIPPER English Communication Ⅲ
副教材　共通テストドリル　英語　リーディング　10minutes

6 一年間の流れ

期間	問題	学習内容
1学期中間	リーディング 10minutes 1～8	1～4　メモや告知の読み取り①～④ 5～8　身近な資料の読み取り①～④
1学期期末	リーディング 10minutes 9～16	9～12　意見文の読み取り①～④ 13～16　日常の出来事の読み取り①～④
2学期中間	リーディング 10minutes 17～24	17～20　レポートや資料の読み取り①～④ 21～24　伝記や起源の読み取り①～④
2学期期末以降受験対策	リーディング 10minutes 25～32	25～28　説明文の読み取りA①～④ 29～32　説明文の読み取りB①～④
	受験対策	

R2年度 42期生 3年次『英語研究』（文科類型） シラバス

授業全体の目標

1. 与えられたトピックに関する様々な英語に触れ、自分の考えを発表することができる。
2. 効果的なプレゼンテーションの形式を学び、特にスピーキングの能力を伸長する。
3. 話すことのみならず、他の3技能についてもバランスよく鍛え、各種試験（外部検定試験、大学入学共通テスト）に対応できる能力を養う。

使用教材：
- Revised BIG DIPPER Communication English Ⅱ
- Revised POLESTAR English Expression Ⅱ

区分	単元	学習到達目標	Can-do 相当	自己評価	評価
1学期中間	BIG DIPPER English communication Ⅱ Lesson 6	●世界の舞台で活躍する日本人になりきり、その人生を英語のプレゼン形式で発表することができる。	Grade4 話すこと(発表)	A B C	PT（試験は授業内で実施）
		○実際のプレゼンテーションを見聞きし、概要やポイントをまとめることができる。		A B C	積極的な態度
		○教科書で紹介されている上野隆博さんの半生を読み、どういった人物かを理解することができる。（レポートをまとめる）			レポート提出
		○英文の書き方やルールについて学び（POLESTAR P4,L1）、自分の意見を効果的にまとめることができる。			
		○他の学習者の発表を聞き、要点をまとめ、さらに質問などをしてやりとりができる。			※1学期中間試験は実施しない。
1学期期末	BIG DIPPER English communication Ⅱ Lesson 9	●スポーツの様々な場面において、フェアプレーかどうかを議論することができる。	Grade5 話すこと(やりとり)	A B C	PT（試験は授業内で実施）
		○実際のスポーツの場面や教科書に書いてある場面を想定し、フェアプレーとは何なのか自分なりに定義することができる。		A B C	積極的な態度
		○自分が選手ならどのような反応をするのか、他の学習者と意見を交わすことができる。			レポート提出
		○今後のスポーツに求められることについて、他の学習者と意見を交わし、それをレポートにまとめることができる。（POLESTAR P3,L2及びL3などを参考に）			
	1学期期末試験				
2学期中間	BIG DIPPER English communication Ⅱ Lesson 7	●日本が海外に対して援助した事例、あるいは日本が海外から援助を受けた事例についてグループで調べ、発表することができる。（POLESTAR P4,L7などを参考に）	Grade5 話すこと(発表)	A B C	PT（試験は授業内で実施）
		○教科書の内容を読み、「フランスお返しプロジェクト」の内容を理解することができる。		A B C	積極的な態度
		○これからの国際社会はどうあるべきか、グループの意見をレポート形式でまとめることができる。			レポート提出
		○データを用いて、自分たちの意見をより具体的に伝えることができる。			※2学期中間試験は実施しない。
2学期期末	BIG DIPPER English communication Ⅱ Lesson 10	●日本または世界が抱える教育の問題を挙げ、それについてデータを用いて発表することができる。（POLESTAR P4,L7などを参考に）	Grade5 話すこと(発表)	A B C	PT（試験は授業内で実施）
		○バングラデシュにおける教育問題とその解決への取り組みについて、教科書の内容をわかりやすくレポートにまとめることができる。		A B C	積極的な態度
		○日本と海外の教育現場の違いや共通点について比較することができる。（映画鑑賞を検討中）			レポート提出
		○これからの日本の教育について議論することができる。			
	2学期期末試験				
学年末	英語系私大及び国公立2次試験入試過去問題	●長文読解問題を解き内容を理解する。		A B C	積極的な態度
		●文法問題を解き、弱点を見つけ、教訓ノートを作成する。			レポート提出
	英字新聞や英語のニュース、海外動画等	●学んだ内容に関わる動画等を見てリスニングの力を鍛えながら、自分の意見を英語で伝える。			

【評価について】 1. 定期試験6割～8割 ＋ その他（PT・レポートなど）4割～2割 ＝ 合計100点　2. 積極的な態度の評価は、授業中のすべての活動が対象となる。提出物も対象となる。

発達と保育（３学年　文科類型選択 ２単位）

１．学習の到達度目標

① 乳幼児の発達の特徴を理解し、乳幼児の生活と保育などに関する知識と技術を習得する。

② 乳幼児の健全な成長に関心を持ち、乳幼児にかかわる意欲や能力、実践的な態度を身につける。

２．学習上の留意点（アドバイス）

座学の勉強だけではなく、保育園を訪問し、実際に子どもと触れ合う学習活動などを通して、保育を担う職業人として必要な基礎的な資質や能力を身につけましょう。子どもへの理解や保育に関する技術を身につけるため、全国高等学校家庭科保育技術検定４級（歌唱・折り紙・童話の読み聞かせ・乳幼児の生活の世話）の取得を目指しましょう。

① 授業

・授業は教科書・学習ノート・プリントを中心に行う。

・社会の状況や子どもの姿に興味を持ち、前向きに授業に取り組むこと。

・提出物や作品は必ず期限を守り提出すること。

② 保育園実習

・一人一人が保育環境であることを忘れずに子どもたちに接すること。

・実習に適した服装、身だしなみ、態度で臨むこと。

・子どもたちと思いっきり遊ぶこと。

③ その他

・全国高等学校家庭科保育技術検定４級を取得する。

３．評価方法

① 定期試験（期末試験）（年２回）　約80%

② 製作物、プリント・学習ノート、学習や実習に対する意欲・態度など　約20%

４．授業形態

教科書の内容に沿った一斉授業

保育体験実習

５．使用教材

教科書　　子どもの発達と保育（実教出版）

副教材　　子どもの発達と保育準拠学習ノート（実教出版）

６．一年間の流れ （予定）

学期	学習内容	考査
1学期	１章　子どもの発達の特性 １発達と乳幼児期の意義　２発達と保育環境　３児童観と発達観 ２章　子どもの発達の過程 １子どもの発育　２子どもの精神発達　３人間関係の発達 ○保育技術検定	第1学期末考査
2学期	３章　子どもの生活 １生活と養護　○おやつ作り実習　○幼児食作り実習 ４章　子どもの保育 １保育の意義と重要性　２家庭保育と集団保育　３保育の方法 ３章　子どもの生活 ２子どもの遊び　○児童文化財や道具の実習 ３生活習慣の形成　４健康管理と事故防止 ○保育園実習	第2学期末考査
3学期	○保育園実習 ５章　子どもの福祉 １子どもの福祉　２子育て支援 ○まとめ学習	